

■英語の諺 201～300

201

Third time lucky.

日本語訳

三度目の幸運。

日本の諺としては、「三度目の正直」に近いでしょうか。

洋の東西を問わず、三度目は、二回の失敗から学び、成功確率が上がると考えるのではないかと思います。

「lucky」ではなく、「魅力・魔力」という意味を持つ「charm」を使った

「The third time's the charm.」も使われています。

また、「Third time pays for all.」（三度目はすべてを埋め合わせる。）もほぼ同じ意味になります。

202

A drowning man will catch at a straw.

日本語訳

溺れる者は藁をも掴む。

上記の日本語訳「溺れる者は藁をも掴む。」が日本の諺として認識されていますが、オリジナルは英語の方です。

因みに、標記に近い諺として「Any port in a storm.」（嵐の時はどんな港でもよい。）が紹介されることがありますが、違いは「port」は助けになり、

「straw」の場合は全く役にたたないので、近いとは言えません。

203

If you want peace, prepare for war.

日本語訳

もし、あなたが平和を欲するならば、戦争の準備をなさい。

日本の諺として近いものは「治にいて乱を忘れず。」でしょうか。

古くは「平和ボケをするな。」ということですが、現代的な考え方で言えば、「抑止力」ということです。

残念ながら、国家という概念が生まれてからの人類の歴史において、軍事力

が必要でなかったことはありません。
標記の諺の意味は、平和は力の均衡に
おいて成立するということです。

204

Never choose your women or your
linen by the candlelight.

日本語訳

ろうそくの光の下では、あなたの女や
シーツは選ぶな。

日本の諺としては、「夜目遠目笠の内」
が対応しています。もっとも、「夜目」
の部分だけでしょうか。

男の勝手な理屈と言えますが、標記の
ように「by the candlelight」では、

願望的な想像が加味されて、その女性が魅力的に思えるのは普通です。

「your linen」が組み合わされていますが、日本人にはピンとこないかも知れません。

205

If you won't work you shan't eat.

日本語訳

もし、あなたが働こうとしないとしたら、あなたは食べることはできない。

日本の諺として認識されている、「働かざる者食うべからず。」は、標記の元となった、新約聖書の「テサロニケの信徒への手紙」の一節 「If any would

not work, neither should he eat. 」

の翻訳のようです。

古代、最も基本的な生存欲求を満たす食料の確保・生産は、多くの人の労働を必要としていました。

それ故、この考え方が当然のこととされたわけです。

206

The busiest men have the most leisure.

日本語訳

最も忙しい男が最も余暇を持っている。

日本の常套句に「忙中の閑」がありますが、これは「忙しい中に予期せぬ暇

な時間が現れることがある。」という意味であり、標記の諺にピッタリの日本の諺は見当たりません。

忙しく働いている人ほど、時間の使い方が上手いという意味では、「The busiest men find the most leisure.」

（最も忙しい人が最大の余暇を探し出す。）の方が相応しいと思います。

207

Early to bed and early to rise makes a man healthy, wealthy, and wise.

日本語訳

早寝と早起は、人を健康に、裕福に、賢くする。

日本の諺としては、「早起きは三文の得」が近いと言えますが、標記の諺ほど具体的な諺は見当たりません。

早起きの効用の諺としては、「The early bird catches the worm.」が有名であり、上記の日本の諺に極めて近いと言えます。

因みに、「早寝早起する」は英語で「keep early hours」という表現が使えます。

208

Ill weeds grow apace.

日本語訳

悪い草は速く育つ。

日本の諺としては、「憎まれっ子世にはばかる。」が近いとされています。

日本において、雑草は農産物にとっては大敵であり、草取りや除草は大変な労力を要求します。

一方、「雑草魂」という言葉があるように、日本においては雑草に対する愛着やリスペクトが存在しています。

英語にも「雑草魂」のニュアンスを含んだ「Weeds never die.」（雑草は決して死なない。）という諺があります。

因みに、標記と同じ意味の「An ill stake standeth longest.」（悪い杭が最後まで立っている。）という諺もあります。

209

Never do today what you can put off till tomorrow.

日本語訳

明日に延期できることを今日するな。

日本にはこの意味になる諺は見当たりません。

本来、「Don't put off till tomorrow what you can do today.」（今日できることを明日に延ばすな。）が存在し、ある意味、標記はパロディということになりあす。

しかし、時には保留にしておいた方がいい場合があることも事実です。

210

Power corrupts.

日本語訳

力は腐敗する。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりませんが、「権力は腐る」として、長期政権への批判に使われます。

標記の諺は、19 世紀のイギリスの歴史家アクトン卿の言葉とされています。

「Power tends to corrupt, and absolute power corrupts absolutely.」

（権力は腐敗しがちであり、絶対権力は絶対に腐敗する。）が元の文のようです。

211

Caesar's wife must be above suspicion.

日本語訳

シーザーの妻は疑惑から離れていなければならない。

日本の諺「李下に冠を正さず。」に通じるものがありますが、これは本人の取るべき態度であり、標記の諺は、「本人ではないが、最も関係の強い人」を対象としています。

因みに、「李下に冠を正さず。」は、中国の故事に由来し、「スモモを盗んでいたと誤解されないようにしなさい」という意味になります。

「Caesar's wife」は「最も世の疑惑を招くことをしてはいけない人」という

ことになります。

212

Easy come, easy go.

日本語訳

簡単に得たものは、簡単に失う。

日本の諺「悪銭身に付かず。」に対応するとされています。

しかし、そのような場合もありますが、異なる状況を意味することの方が多いと思います。

要は、あまり努力をしないで、運よく獲得した物は、有難みが少ないので、浪費したりしてしまおうという意味です。

「Come easy, go easy.」と語順を逆に

した表現もあります。

213

Imitation is the sincerest form of flattery.

日本語訳

模倣は最も誠実な形の追従（ついしょう）である。

日本でも、「学ぶは真似るにあり」という考えがありますが、ピッタリの諺は見当たりません。

兎角、オリジナリティがもてはやされますが、例え独自性があっても、レベルの低いものであれば、むしろ、名人・達人の真似の方が上でしょう。

「sincere」は「誠実な・心からの」という意味であり、「flattery」は平たく言えば、「お世辞・おべっか」の意味です。

214

Never hit a man when he's down.

日本語訳

倒れた男は叩くな。

日本の諺としては、人が犬に代わった「水に落ちた犬は打つな。」が対応しています。

これは価値観の問題ですが、勝負は非情ということであれば、相手が弱って

いる時にこそ攻撃することが是とされます。

因みに、例のごとく、中国の魯迅が結論を逆にした「水に落ちた犬は打て。」を使ったことにより、これも諺になりつつあります。

215

Pride goes before a fall.

日本語訳

高慢は没落に先立つ。

日本の諺としては、「奢れるものは久しからず。」が対応しています。

「pride」はポジティブな「誇り」という意味で理解されていて、「高慢・傲慢」

は「arrogant」の方が相応しいと思いますが、諺としては標記が定着しているようです。

因みに、キリスト教における「七つの大罪」(Seven Deadly Sins)の一つ「傲慢」の定訳は「pride」になっています。

216

Call no man happy till he dies.

日本語訳

彼が死ぬまで幸福と言うな。

日本の古い諺として「棺を蓋いて（おおいて）事定まる。」が、標記の諺を包含していると思います。

その人の人生全体の価値の確定は、その人が生きている間には難しく、死んだ後にならないと定まらないということです。

標記の諺が語られる状況は、例えば、裕福で家庭にも恵まれている人に対して、知人たちが羨望を込めて発言した際に、他の皮肉屋の知人が言う台詞でしょうか。

217

Eat to live, not live to eat.

日本語訳

生きるために食べよ、食べるために生きるな。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

説明するまでもなく、標記の諺は、目的「生きること」と手段「食べること」を間違えるなということを主張しています。

この諺のルーツは、ソクラテイスの言葉とされています。

ソクラテイスは、当時の神の宣託で最高の賢者とされた、紀元前4世紀に活躍したギリシャの哲学者です。

バリエーションとして、「Live not to eat, but eat to live.」という諺もあります。

In for a penny, in for a pound.

日本語訳

ペニーに関わったら、ポンドにも関わ
れ。

日本の常套句としては「初志貫徹」が
近いでしょうが、諺にはピッタリなも
のは見当たりません。

標記の諺は、年配者が若い人に対して、
「一度始めたことは中途半端にしないで、
最後までやりなさい。」という意図
で告げる言葉のようです。

ニュアンスとしては、稼ぎになること
を始めた場合に、「最初は少ない儲けで
も、続けてより多くを稼ぎなさい。」と
いう意味合いになります。

219

Never is a long time.

日本語訳

「決して」は長い時間である。

「never」の意味を哲学的に考察した言葉であり、日本の諺に対応したものではありません。

説明するまでもなく、「never」は強い「全面否定」を意味しますが、長い時間の経過があると、状況が変化し、否定から肯定になるということがあります。

イギリスでは、14 世紀の文学作品にも登場しています。

要は、「never」は情緒的な言葉であり、

客観的な事実を表していないということです。

220

Procrastination is the thief of time.

日本語訳

先延ばしは時間泥棒である。

同じ意味の諺として、「Never put off till tomorrow what may be done today.」（今日できそうなことは明日に延ばすな。）などがありますが、標記は極めて難しい言葉であることが特徴です。

この「procrastination」はラテン語由来の言葉で、「pro-」は「先へ・前へ」

という接頭辞、「cras」は「明日」という意味を持つ言葉で組み立てられています。

221

Care killed the cat.

日本語訳

心配がネコを殺した。

日本では、中国の故事成語「杞憂」のように、「心配し過ぎる」ことを戒める言葉がありますが、標記に対応した諺としては、「心配は身の毒：」が近いでしょうか。

要は、「心配をし過ぎると、気を病んで死に至るので、ほどほどにしましょう。」という意味で使われます。

因みに、標記の冒頭の単語を入れ替えた「Curiosity killed the cat.」（好奇心がネコを殺した。）があり、双子の諺のようです。

222

Eavesdroppers never hear any good of themselves.

日本語訳

立ち聞きする者は決して彼らの良いことを聞かない。

この諺の冒頭「Eavesdroppers」は、まるでイギリスの故事成語のような言葉です。

元々は、「軒先の雨だれ」の意味でしたが、雨宿りをしている人が、自分の噂話に聞き耳を立てたことから、「立ち聞きする人」の意味になり、「eavesdrop」が「立ち聞きする」という動詞として使われるようになりました。

因みに、「Listeners never hear any good of themselves. 」とも言います。

223

Never make a threat you cannot carry out.

日本語訳

あなたが実行できない脅しはするな。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

好ましく思っていなくても、無暗に敵意を露わにしたり、標記の諺のように、脅しをかけたりはすべきではありません。

対決する覚悟と、勝算があってこそ脅しをかけるべきです。

同じ意味の諺として「If you can't bite, never show your teeth.」があります。

224

In wine there is truth.

日本語訳

ワインの中に真実がある。

日本にも「酒」に関わる諺が少なくありませんが、その中で「酒飲み、本性変わらず。」が通じるものがあるかも知れません。

しかし、実際には標記の諺のように、普段隠している本性が、酒を飲むことにより現れることが多いのではないかと思います。

前後を逆にした「There is truth in wine.」も使われています。

225

Never trouble troubles till trouble troubles you.

日本語訳

困ったことがあなたを困らせるまで、
困ったことを問題にするな。

日本の諺では、「毛を吹いてキズを求む。」、「藪を突いて蛇を出す。」に近いかも知れません。

この諺を肯定するかしらないかは、人によって意見が分かれると思います。

確かに、「trouble」は潜在したままずっと表面化しないことも、時が解決してしまうこともあります。

しかし、初期の段階で解決しておいた方がいいことも少なくありません。

同じ意味の諺として「Never meet trouble half-away.」があります。

226

Catch the bear before you sell its skin.

日本語訳

その皮を売る前に熊を捕まえよ。

熊ではなく狸ですが、日本の諺「捕らぬ狸の皮算用」は同じ思考パターンと言えます。

同じ意味のより有名な諺として「Don't count your chickens before they are hatched.」（鶏の卵がヒナになるまで、数に入れるな。）がありますが、上記の方がよく対応しています。

このような「希望的観測」は、洋の東西を問わず、人間の性なのではないでしょうか。

227

An empty sack cannot stand upright.

日本語訳

空の袋はまっすぐ立たない。

日本の諺としては、「腹が減っては戦が
できず。」に対応します。

標記の諺は、例えば、何か力仕事を頼
まれた際に、「何日もろくに食べていな
いので、無理だ。」と断る状況でしょう
か。

あるいは、その日の食事がまだなので、
冗談としての台詞かも知れません。

「Empty sacks (bags) cannot stand
upright.」でも使われます。

228

Never too old to learn.

日本語訳

学ぶのに年を取りすぎているということはない。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりません。

一般論としては、あることを習得し、それなりのレベルに達するためには、若いうちに始める方が良いとされています。

しかし、50代から始めて日本全土の測量地図を完成させた伊能忠敬の例もあります。

私も、70 歳を直前にして、英語の諺の研究を始めています。

標記の諺はきちんとした文にすると「It is never too old to learn.」になります。

229

It is a long lane that has no turning.

日本語訳

曲がり角がない道は長い道である。

究めて哲学的な諺であり、日本の諺には対応するものが見当たりません。

英語の研究者によると、これは反語的な表現と考えるべきで、どこまでも続くまっすぐな道はないと解すべきだと

のことです。

現在の道が好ましくない状況であり、曲がり角が「好転」とすれば、標記の諺の言わんとしていることは、「諦めずに努力を続けろ」ということになります。

230

Promises, like pie-crust, are made to be broken.

日本語訳

約束は、パイの皮のように、破られるために作られる。

日本でも、諺ではないかも知れませんが、「約束は破られるためにある。」と

いう常套句があります。

標記の諺は、パイの表面が焼かれて硬くなり、中の具を食べるために破られることを引き合いに出して、「約束は破られる」ことが当然のことであることを主張しています。

語順を変えた「Promises are like a pie-crust, made to be broken.」も使われます。

231

A change is as good as a rest.

日本語訳

変化は休憩と同じくらい良い。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりませんが、仕事や作業に飽きた

り、煮詰まったりすると、「気分転換」
するという考え方は一般的です。

「change」にはダーウインの「種の起
源」にある、「生命が生き残りを賭けた
変化」のように重たい「変化」もあり
ますが、標記の諺における「change」
は単に目先を変える程度の変化だと思
います。

232

Empty vessels make the most sound.

日本語訳

空の容器は音が大きい。

現在ではあまり耳にしませんが、日本
の諺として「空き樽は音が高い」があ

り、標記の諺とほぼ同じ発想と言えます。

何も入っていない樽や甕ほど、叩けば高く響き、大きい音がするものです。

要は「中身の無い人間ほど、大言壮語する」という例えとして使われます。

因みに、「Who knows most, speaks least.」（最も知っている人は、最も少なく話す。）という対極の諺もあります。

233

It is a wise child that knows its own father.

日本語訳

自分の父親を知る子は賢い子である。

日本の諺としては、逆説的な「親の心子知らず。」が知られています。

標記の諺が存在するのは、イギリスにおいても「親の心子知らず。」が普通だからと言えます。

親の押し付けという傾向も強いと思いますが、社会経験のない子どもが大人のを考えを理解できないのは当然です。

因みに、標記の諺をもじった「It is a wise father that knows his own child.」という表現も使われています

234

New brooms sweep clean.

日本語訳

新しい箒（ほうき）はきれいに掃く。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりませんが、「畳と女房は新しいほどいい。」が近いかも知れません。

もっとも、セクハラで訴えられる可能性がありますから、使わない方がいいでしょう。

比喩としては、長期政権のリーダーへの陰口に使えます。

因みに、主語が単数形の「A new broom sweeps clean.」も使われます。

235

Punctuality is the politeness of kings.

日本語訳

時間厳守は王様たちの丁重さである。

日本の諺としてはピッタリのもの見当たりません。

「punctual」という形容詞は、ラテン語の「点」から派生した言葉であり、ドイツも含めてアングロ・サクソンの精神文化に根差した考え方のようにです。標記は王様を引き合いに出していますが、現代版の「Punctuality is the soul of business.」（時間厳守はビジネスの魂である。）も使われます。

236

Choose a wife by your ear rather than by your eye.

日本語訳

目でより耳で妻を選べ。

日本の古い常套句として、「見目より心」という表現がありますが、標記にピッタリな諺は見当たりません。

洋の東西を問わず、伴侶を求める際、男であっても女であっても、先ず容貌を優先させるようです。

しかし、外見は良くても、怠け者だったり、思いやりがないような性格であれば、一生の不作ということになります。

237

The end justified the means.

日本語訳

結果は手段を正当化する。

日本の諺としては、「終わり良ければすべて良し。」が極めて近いものと言えます。

因みに上記の日本の諺「終わり良ければすべて良し。」は、英語の諺「All is well that ends well.」の翻訳がかも知れません。

よくあることですが「The end does not justify the means.」のように、標記の逆の考えの表現も使われます。

238

Nine tailors make a man.

日本語訳

九人のテーラーが一人の男を作る。

標記の諺はイギリス固有のものであり、日本の文化や思考パターンと通じるものはなさそうです。

要するに、英国紳士がスーツを作る際に、一人のテーラーに任せるのではなく、多くのテーラーの中から選別することから、この諺が生まれたとされています。

それだけ、英国紳士はスーツに拘るといふことでしょうか。

239

It is an ill bird that fouls its own nest.

日本語訳

自分自身の巣を汚すのは悪い鳥である。

日本の諺としては「立つ鳥跡を濁さす。」
に対応するとされています。

しかし、文面から解釈すると、「住み続ける巣を糞などで汚すのは愚かなことである。」となり、「立つ鳥跡を濁さす。」
となると前提が違います。

どうも、どちらもあるようです。

因みに、「It is a dirty bird that fouls its own nest.」というバリエーションもあります。

240

Speech is silver, silence is golden.

日本語訳

演説は銀、沈黙は金。

日本では「雄弁は銀、沈黙は金」という諺があります。

遡ると、すでに9世紀のアラビアに同じ発想の言葉があると言われていました。イギリスでは、19世紀の歴史家トーマス・カーライルが広めた諺と言われていました。

因みに、「Eloquence is silver, silence is golden.」が日本の諺の由来です。

「Silence is golden.」だけでも使われます。

Clothes make the man.

日本語訳

衣服がその男を作る。

日本の諺では、「馬子にも衣装。」が対応します。

しかし、「馬子にも衣装。」は裏に揶揄している心理が隠れています。それに対して、標記の諺は、それなりに中立な感じがします。

英国紳士にとっては身なりは大変重要な要素と考えられているようです。

標記の諺を否定形にした、「Clothes do not make the man.」も使われています。

England's difficulty is Ireland's opportunity.

日本語訳

イングランドの困難は、アイルランドのチャンスである。

この諺は、普遍的な教訓ではなく、極めてローカルな歴史的な状況を表したものです。

日本ではイングランドとアイルランドの確執について、ほとんど理解されていませんが、民族的・宗教的な違いにより、争いが続いている地域と言えます。

つまり、標記の諺のように、利害が正反対になることが多いということです。比喩としてこの諺を使うには、相手が

歴史的な知識を持ち合わせている k と
が前提になると思います。

243

It is better to give than to receive.

日本語訳

受け取るより与える方が良い。

日本にも同じ考え方はあると思いますが、
諺としてはピッタリのものは見当
たりません。

標記の諺のルーツは新約聖書にイエス
の言葉として引用されています。

その現代英語版は「It is more blessed
to give than to receive.」というもの
です。

持てる者は持たざる者へ寄付する文化、
あるいは価値観はキリスト教と関係し
ているようです。

244

No man can serve two masters.

日本語訳

二人の主人には誰も仕えられない。

日本の諺としては「二君にまみえず。」
あるいは「忠臣二君に仕えず。」に対応
しますが、これらと標記の諺とはルー
ツが違うようです。

標記の諺は、新約聖書で「You cannot
serve God and mommon.」（あなたは神と
財産に仕えることはできない。）とあり、

これがルーツです。

日本の諺は、封建時代に定着した考え方と思われませんが、ルーツは中国の歴史書にあるようです。

245

Trust in God, and keep your powder dry.

日本語訳

神を信じ、火薬を湿らせるな。

日本の諺には対応するものは見当たりません。

これは、17 世紀のイギリスの宰相クロムウェルの言葉から諺になったものです。

状況としては、銃や大砲で戦闘状態にある部隊に対して、檄を飛ばす際の言葉と言えます。

「powder」は様々な「粉」を意味しますが、この文脈では「粉状の火薬」という意味で使われています。

ロングバージョンとして「Put your trust in God, and keep your powder dry.」があります。

246

Cold hands, warm heart.

日本語訳

冷たい手、温かい心。

日本でも、かなり以前から「手の冷た

い人は心が温かい。」という諺とも迷信ともつかぬものが言われていました。標記の諺の存在を知ると、ヨーロッパから伝わったと考えるべきでしょう。イギリスにおいても、標記はしっかりした根拠やルーツがない俗信として認識されているようです。因みに、「Moist hand indicates amorous nature.」（湿った手はスケベな性質を示す。）という諺もあります。

247

Every cloud has a silver lining.

日本語訳

すべての雲には銀の裏地がある。

日本の諺としては、「苦あれば楽あり」が近いと言われますが、かなりニュアンスが違います。

標記の諺中の「cloud」は望ましくない状況のシンボルであり、「silver lining」はそれを打ち消す希望のシンボルということになります。

「While there's life there's hope.」
(命ある限り希望はある。)も意味的には近い諺です。

248

No man is indispensable.

日本語訳

絶対必要なほどの人はいない。

日本には、「余人を持って代えがたし」という常套句がありますが、標記の諺は、「そんな人はいない。」と主張しています。

兎角、「俺がいないとうちの会社は成り立たない。」と自負している人がいますが、長期病欠してみても、そんなことはなかったことがわかります。

同じ形式の「No man is infallible.」（過ちを冒さない人はいない。）という諺もあります。

249

It is better to travel hopefully
than to arrive.

日本語訳

到着してしまうより、楽しい道中が良い。

日本の諺にも、「かわいい子には旅をさせろ。」「旅は道連れ、世は情け。」など、「旅」に関する諺は少なくありませんが、標記にピッタリなものは見当たりません。

確かに、旅の本来の目的はまさに目的地に到着することですが、途中での景色や人との出会いも捨てたものではありません。

時には、到着してしまっても気が抜けてしまうこともあるでしょう。

The spirit is willing, but the flesh is weak.

日本語訳

精神は望んでいるが、身体が弱い。

日本の諺としては見当たりませんが、「気持ちはあるが、体が言うことを聞かない。」と、主に年配者が言う台詞です。

つまり、疲れていてできないと言うより、高齢化による体力の低下により、以前出来ていたことさえできなくなるということです。

元々は新約聖書マタイ伝にある一節から諺になったと言われています。

Coming events cast their shadow before.

日本語訳

来つつある出来事は事前に彼らの影を投げる。

日本の常套句としては、「不吉な前兆」ということになります。

最近では、集中豪雨による土砂崩れなどの自然災害において、音や匂いなどの前兆があることが知られています。

また、軍事クーデターなどの場合も、特有の前兆があるのかも知れません。

因みに、文法的には「shadow」ではなく、複数形の「shadows」が正しいと思います。

252

Every dog has his day.

日本語訳

すべての犬に彼の日がある。

日本の諺にも、「犬も歩けば棒に当たる。」という「犬」にまつわるものがありますが、標記にピッタリなものは見当たりません。

標記の諺を使う状況は、なかなかないかも知れません。

それは、「犬のようなつまらない存在であっても、得意な状態の日々もある。」という意味なので、相手を馬鹿にしているニュアンスがあり、励ますことにならないからです。

253

It is easier to pull down than to build up.

日本語訳

建設するより、引き倒す方が簡単である。

この考えは、日本でも常識と言えますが、ピッタリの諺は見当たりません。

人類の歴史において、多くの建造物が造られ、それが災害や戦禍で破壊されてきたことを知らない人はいないでしょう。

また、人が努力を積み上げて獲得した地位や名誉が、一瞬で瓦解することも

世の常です。

「pull」を「tear」に入れ替えた「It is easier to tear down than to build up.」も使われます。

254

No news is good news.

日本語訳

知らせがないのは良い知らせ。

日本の諺「便りの無いのは良い便り」は、日本オリジナルなものではなく、明治末に標記の諺が翻訳でされ定着したと言われていています。

よくある状況は、親元を離れて暮らす子供たちが便りをよこさないことを心

配している両親に対して、友人がかける言葉です。

無事に暮らしていて、経済的にも問題がない状況なので、連絡を寄越さないということです。

255

The race is not to the swift, nor
the battle to the strong.

日本語訳

レースは速い者のためではなく、戦いは強い者のものではない。

それこそ、下馬評で本命とされていた馬がレースに勝てなかったり、最強と

言われた軍隊が破れたり、歴史的な番狂わせは珍しいことではありません。勝負事には「あや」というものがあり、絶対はないということです。この諺の原形は、旧約聖書にもあり、過信への戒めとして、古くから教訓として伝えられています。

256

Constant dripping wears away a stone.

日本語訳

継続的な滴りは石を壊す。

日本の諺としては、「点滴石を穿つ。」、あるいは「雨垂れ石を穿つ。」でしょうか。

この日本の諺の由来は、紀元前2世紀、漢の時代の文献にあるようです。

標記の諺が、中国をルーツとするものか、偶然にして同じ発想だったのかは定かではありません。

「i」を「o」に代えただけの「Constant dropping wears away a stone.」のものもあります。

257

Every dog is allowed one bite.

日本語訳

すべての犬は一噛みが許されている。

日本の諺では、「飼い犬に手を噛まれる。」が有名ですが、標記の諺にピツタ

りのものは見当たりません。

犬が人の手などを噛むことは少なくありませんが、調教されたりすると、噛まないようになります。

標記の諺は、比喻として、支配者や上司に対して、異論を唱えたり逆らったりすることが、一度は許されるということです。

時には、「次回は許さないぞ。」という意味で使われます。

258

Noblesse oblige.

日本語訳

上流階級の義務

カタカナ英語「ノーブレス・オブリージュ」（高貴な者の義務）として知られています。

ヨーロッパの王侯貴族は、様々な特権を持つ人々ですが、一方では、庶民とは違った行動規範に縛られることになります。

標記の言葉は、フランス語からそのまま英語になったものです。

259

It is easy to be wise after the event.

日本語訳

事が起こった後で賢いことは容易である。

日本の古い諺として、「下衆の後試案」というものがあり、標記の諺とかなり近いと言えます。

また、常套句「後からは何とでも言える。」があり、感覚的にはより近いと思います。

洋の東西を問わず、好ましくない結果に終わった事に対し、「だから、ああしとけば良かったんだ。」という言う人が出てくるものです。

260

The squeaking wheel gets the grease.

日本語訳

軋んでいる車輪は油が差される。

日本の諺にはピッタリのものは見当たりません。

標記の諺の状況は、車輪の軸受けなどの歪みにより、また、油やグリースなどの潤滑剤が不足しているため、馬車などの車輪が大きな音を立てているということです。

比喩としては、「不平を表明している人間は、対応してもらえる。」というような際に使われます。

変化形として「The squeaky wheel gets the grease.」があります。

261

A creaking door hangs longest.

日本語訳

軋んでいるドアが最も長もちする。

標記の諺は、基本的に物などの耐久性について言及されたものであり、比喻として使われるにしても、機械や道具に対してだと思われます。

それに対して、日本の「一病息災」という諺は、人に特化したものと言えます。

確かに、物にしても人にしても、そろそろ寿命かなと思ってから先が長いという印象はありますね。

262

Every family has a skeleton in a closet.

日本語訳

すべての家族には押し入れに骸骨がある。

「skeleton」は、他人には知られたくない「秘密」や「恥」の象徴として登場しています。

そのため、「skeleton in a closet」を切り出して、「家族の秘密」、「家族の恥」という意味で使われます。

「closet」を「cupboard」（戸棚）に置き換えたものも使われます。

また、「There is a skeleton in every house.」も同じ意味になります。

263

It is good fishing in the troubled waters.

日本語訳

波立つ水の中が魚を釣るには良い。

あまりに澄んで、静かな川や池では魚を漁ることができないということが少なくありません。

それなりに、波立ったり濁ったりしている方が魚は漁りやすいということです。

比喩的は、「多少混乱の時代の方が成功するチャンスがある。」という意味で使えらると思います。

因みに「troubled waters」は、サイモンとガーファンクルの「明日に架ける橋」の歌詞に登場して、強い印象を受けました。

不定詞を使った「It is good to fish

in the troubled waters.」も使われています。

264

Dead men tell no tales.

日本語訳

死人は物語を話さない。

日本の常套句としては「死人に口なし」があります。

言うまでもなく、重要な事件の真相や、後世に伝えるべき歴史的事実であっても、キーマンが突然死んでしまっても、まさしく、「墓場まで持って行った」ということになります。

健全な社会で使われる言葉ではなく、

いわゆる裏社会で交わされる表現のよ
うな気がします。

「Dead men don't talk.」も同じ意味の
諺です。

265

None but the brave deserves the fair.

日本語訳

勇者のみが美女を獲得する資格がある。

日本の諺には、標記の諺に近いものは
見当たりません。

一見すると、アーサー王物語に出てく
る勇者たちの話のように思われますが、
実際は違うようです。

要するに、「好きだ」という告白をする

勇気のことを言っているようです。
同じ意味で、逆説的諺として、「Faint heart never won fair lady.」（気弱な心では美女を勝ち取れない。）があります。

266

The customer is always right.

日本語訳

お客がいつも正しい。

日本の常套句「お客様は神様です。」に近いでしょうか。

お客が無理難題を要求してくることは少なくありません。客商売では、それらの要求を無下に断ることは得策では

ありません。100%応えられないとしても、「最大限の努力をする」という態度を見せる必要があります。

標記の諺は、売り場の責任者が、新人教育で最初に口にする言葉と言えます。

267

Every herring must hang by its own gill.

日本語訳

すべての鰯は自分の鰓でぶら下がらなければならない。

日本語では、「自己責任」あるいは「自業自得」に対応するようです。

イギリスでは鰯（にしん）は魚の代名

詞のような存在であり、日本の「鯛」に相当するようです。

鯨にとっては迷惑なことでしょうが、自分の鰓でぶら下げられて、乾燥させられるので、皮肉な見方をすると、自己完結していると言えます。

268

Nothing comes of nothing.

日本語訳

何もないところからは何も来ない。

日本の常套句では「無は有を産まず」ということでしょうか。

原因や元があるので、何らかの現象や結果が生じると考えるのが、経験則で

もあり、合理的な思考と言えます。
純粹に哲学的なことではなく、「努力しなければ成果はでない。」という身近な事象について使われます。

標記の諺は、古代ギリシャの詩人アルカイオスの言葉に由来すると言われて
います。

269

It is good to make a bridge of gold
to a flying enemy.

日本語訳

逃げる敵には金の橋を造るのが良い。

おそらく、中国や日本の兵法の中にも
この考え方はあると思いますが、諺と

しては見当たりません。

昔の大きな戦いにおいて、勝勢にある側が、相手の殲滅を意図して、退路を断ってしまうと、場合によっては死に物狂いの反撃に合うことがあります。

あえて、相手の退路を造って、深追いをしないことも有力な戦術と言えます。

「a bridge of gold」だけを切り出して、「逃げ道」という意味で使うことができます。

270

Still waters run deep.

日本語訳

静かな水は深く流れる。

大河は、満々と水をたたえ、静かに流れていますが、膨大な質量の水を下流へと運んでいます。

標記の諺は、大自然のスケールを表現したのですが、比喩としては、泰然自若として多くを語らない人が、深い知識を持っていることを意味します。

同じ意味のより直接的な諺として、「A still tongue makes a wise head.」があります。

271

Every Jack has his own Jill.

日本語訳

すべてのジャックには彼のジルがいる。

日本の諺として、少し見下したニュア

ンスですが、「破れ鍋に綴蓋」があります。

標記の諺も、多少見下したニュアンスがあり、「お前みたいな大したことの無い男にも、結婚相手はいるものだ。」という気持ちが込められていて、言われた方が嬉しい言葉ではありません。

同じ意味で、「Every Jack must have his own Jill.」があり、多少ポジティブなものとして「A good Jack makes a good Jill.」（良い夫が良い妻を作る。）があります。

272

It is never too late to
learn.

日本語訳

学ぶのに遅すぎるということはない。

日本の諺として、標記の諺の範疇を含む「思い立ったが吉日」があります。様々な巡り合わせにより、学んでおくべきことを学ばずにきてしまったということがあります。

そのような状況において、目上の方が目下の人に言うべき言葉と言えます。

因みに同じ構文の「It is never too late to mend.」（直すのに遅いということはない。）があります。

273

Nothing is certain but death and taxes.

日本語訳

死と税金以外には、確実なものはない。

日本の諺にはピッタリなものは見当たりませんが、洋の東西を問わず、古代から租税に対する庶民の恨みつらみは存在していました。

標記の諺は、自然の摂理として逃れられない「death」を引き合いに出して「tax」に対する怨嗟を表明したものです。

ある程度の文明レベルに達してからの社会における権力の源泉は「課税権」だったと言っても過言ではありません。

Every law has a loophole.

日本語訳

すべての法律には抜け穴がある。

自然法則についても、「例外のない法則はない。」ということであり、まして、人間が作る法律に不備な部分が存在することは避けられません。

また、言葉の多義性により、少し解釈を捻じ曲げれば、結論は大きく変わってきます。

更に、最初から意図的に「loophole」を組み込んだ条文にすることもあっても知れません。

It is not work that kills, but worry.

日本語訳

殺すのは仕事ではなく、心配である。

日本の諺では、あまり知られていませんが、「心配は身の毒」があります。標記の諺は、「work」と「worry」が対比されていて、かつ韻を踏んでいます。要は、肉体的な辛さより、精神的なストレスの方が良くないということです。因みに、「Care killed the cat.」（心配がネコを殺した。）という面白い諺もあります。

276

Nothing is certain but the

unforeseen.

日本語訳

将来が見通せないということ以外確かなものはない。

日本の諺では、「一寸先は闇」に近いでしょうか。

標記は逆説的と言うか、皮肉交じりの表現と言えますが、確かに、いつも通りのこと、想定通りのことだけが起こるのではなく、予期しないことも起こります。

実際の頻度は低いとしても、インパクトが強いので、標記の諺に納得感があるわけです。

因みに、「一寸先は闇」により近い英語の諺は「The unexpected always

happens.」でしょうか。

277

Many a little makes a mickle.

日本語訳

多くの小さなことが大きなものを作る。

日本の諺「塵も積もれば山となる。」にかなり近いですね。

どちらかと言うと「良いことが大きくなる」という意味で使われます。

「mickle」は古いスコットランドの方言で、文頭で使われている「many」の意味ですが、「little」と脚韻を踏んでいるので、諺らしくなっています。

標記の諺をよりコンパクトにした

「Every little helps.」(少しずつでも力になる。)も使われます。

278

Rain before seven, fine before eleven.

日本語訳

朝7時の雨は、11時には晴れ。

諺ではないかも知れませんが、日本にも「朝霧は晴れ」という言葉があります。標記の諺と近いものがありますね。厳密に言うと、イギリスの地域も限定されると思いますが、標記はイギリス人の経験則ということでしょうか。

「7-11」であることが、コンビニを思

い出させますね。

279

It is the last straw that breaks the camel's back.

日本語訳

ラクダの背骨を折るのは最後の藁一本である。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりませんが、標記の諺の翻訳は、かなり知られていると思います。

この諺の奥深い点は、藁一本の重みは極めて軽いものであり、わずか一本加えたからといって、状況は激変しないと、誰もが考える点です。

より端的なバージョンとして「The last straw breaks the camel's back.」があります。

また、「the last straw」あるいは「the final straw」だけで、「最後の決め手。・とどめ」として使われます。

280

A stitch in time saves nine.

日本語訳

適時の一縫いが九縫いを救う。

日本の諺としては「今日の一鍼、明日の十鍼。」がありますが、標記の諺の翻訳のようです。

これも、経験則から導かれた人類の知

恵の一つです

説明するまでもありませんが、衣類は使っているうちに、ほつれが出てきます。その際、初期の段階で止めておけば、暫く持ちます。ところが、油断しているうちに、綻びになって大事になります。

標記の諺の応用範囲は大変広いと思われれます。

281

Every man to his taste.

日本語訳

すべての男は彼の好みがある。

日本の諺「十人十色」のある面は対応していると言えます。

「Every man」の代わりに「Everyone」でも成立します。
また、もっと短く「Tastes differ.」（好みは違う。）や、より有名な「There is no accounting for taste.」（味の好みは説明がつかない。）など、同じ意味の諺は多く、古今東西普遍的な認識なのかも知れません。

282

It is the pace that kills.

日本語訳

殺すのはペースである。

日本語の諺としては、「急いては事を仕損じる。」が意味合いとしては通じると

ころがあります。

急ぐことが危険な理由はいくつかあると思いますが、日常生活において最大のものは交通事故などに遭遇する可能性が高くなることです。

次に、以前「Aタイプ」と呼ばれた生活習慣があります。これは、何かしてないと落ち着かない、何でも急いでしまうという性格と言えます。結果として、心筋梗塞の可能性を高めることになるそうです。

283

Nothing is given so freely as advice.

日本語訳

助言ほど自由に与えられるものはない。

この諺は、皮肉を込めた表現になっています。

思いやりの気持ちからの助言であっても、相手は元手をかけていないので、「freely」であるという裏の気持ちが込められた表現と言えます。

日本の古い諺「思し召しより米の飯」と同様、実質的な援助の方がいいということです。

因みに「思し召しより米の飯」は「おぼしめし」と「こめのめし」という韻を踏んでいます。

284

Beauty is in the eye of the beholders.

日本語訳

美は見つめる者の目の中にある。

日本には、「美」を日常的に論じる文化はないようで、諺も見当たりません。

「beauty」には、アニメ映画やミュージカルで知られる「美女と野獣」の原題は「Beauty and the Beast」からもわかるように、そのまま「美人」の意味もあります。

黄金比などで、美人を分析する学問もあるようですが、ここでは、「人それぞれ」と断じています。

因みに、「behold」はあまり使われない「注視する」という動詞です。

It is too late to shut the stable door after the horse has bolted.

日本語訳

馬が飛び出た後で厩の扉を閉めても遅い。

日本の諺にはピッタリのものはありません。

標記の諺の状況は、厩の扉に鍵をかけずにいて、嵐や騒ぎに驚いた馬が飛び出してしまってから、慌てて扉を閉めたという間抜けた状況です。

因みに、「stable」は「安定している」という形容詞で馴染みがありますが、「厩」という意味もある名詞です。また、「bolt」には、名詞として「ボルト・稲妻」などの意味がありますが、

ここではは動物などが「飛び出る」という動詞です。

286

Nothing so bad but it might have been worse.

日本語訳

より悪化していただろう状況より悪くはなかった。

日本の諺「不幸中の幸い」に「と考えよう」が加わった意味と言えます。

言うまでもなく、英語の形容詞には比較級・最上級とう変化があり、「bad」、

「worse」、「worst」と変化します。

ここでは「bad」と「worse」が使われ、

結論として「worst」ではなかったということですが。

長いバージョンとして「There is nothing so bad that it might not have been worse.」があります。

287

Everybody's business is nobody's business.

日本語訳

すべての人のビジネスは誰のビジネスでもない。

日本の常套句「共同責任は無責任」あるいは「連帯責任は無責任」に対応します。おそらく、標記の諺が翻訳され

て、日本に定着したと言われていています。多くの人が力を合わせることは、時には大きな成果を上げることもあると思いますが、責任をとる気概がある人がいないと失敗すると思います。実際のビジネスの世界では、かなりの頻度で登場する表現ではないでしょうか。

288

Rats abandon a sinking ship.

日本語訳

ネズミは沈みゆく船を捨てる。

日本でも、「ねずみは沈没しそうな船か

らいち早く逃げ出す。」という物語は知られています。

おそらく、標記の諺が翻訳されていたのでしょう。

「Rats desert a sinking ship.」と「desert」が使われるバージョンもあります。

多くは、倒産しそうな企業から人が逃げ出すという状況で使われます。

経営者は恨みを込めて「like rats abandoning a sinking ship.」と言いたいでしょう。

289

It never hurts to ask.

日本語訳

質問して傷つくことはない。

日本の諺としては、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」があります。

標記は、ちょっとした疑問があるのに、他人に気兼ねして、聞くことをしない人に対して、友人がかけるアドバイスと言えます。

時には、「そんなことも知らないのか？」と詰られることがあるかも知れませんが、例えば、「確認ですが」を前につけて質問すればよいわけです。

290

Straws tell which way the wind blows.

日本語訳

藁が風向きを教える。

日本の諺としてはピッタリのものは見当たりません。

藁を、「ラクダと藁」の場合のように、一本そのままと考えると意味がわかりませんが、標記の諺の状況は、きざんだ藁を指で摘まんで落とすと、かすかな風でもその方向と強さを確認できるというものです。

標記の諺を前提に「a straw in the wind」を「変化の小さな予兆」という意味で使います。

291

Everything comes to him who waits.

日本語訳

待っている男のもとにすべてのものが来る。

日本の諺としては、「待てば海路の日和あり。」に対応しています。

現時点では逆境にあってもうまく行く目途が立たなくても、諦めずに辛抱強く、努力を続けて待つべきであり、そうすれば順境に変わることもあるという考えです。

「Everything」は良いことと思われま
すから「Good things come to him who
waits.」としたバージョンもあります。

292

It never rains but it pours.

日本語訳

土砂降りではなく雨は降らない。

日本の常套句としては「降れば土砂降り」がありますが、標記の翻訳かも知れません。

多少被害妄想のようにも思えますが、時として、予期していた以上の悪い結果に見舞われることがあります。

同じ意味を表す諺として「Misfortunes never come singly.」（不幸は単独では来ない。）があります。

293

Nothing succeeds like success.

日本語訳

成功のように続くものはない。

日本の諺には、標記にピッタリのもの
は見当たりませんが、常套句として
「とんとん拍子」があり、ニュアンス
としては通じるものがあります。

これまで成功しなかったことに、一度
成功すると、好循環に入ったように成
功が続くことがあります。

同じ好循環の諺として、「
Money begets money.」（お金はお金を
産む。）があります。

294

Example is better than precept.

日本語訳

例は教えより良い。

日本の諺としては、「論より証拠」に近いでしょうか。

神父・牧師・教師のありがたい教えや法律の条文は、多くの事象を包含するため、かなり抽象的なものになりがちです。

「例えばこういうことですよ。」という具体的な例を出してもらった方が理解できるわけです。

標記の諺よりもレトリックが効いている「An ounce of practice is worth a pound of precept.」という諺もあります。

It takes money to make money.

日本語訳

お金を作るにはお金がかかる。

日本でも、「金が金を産む」という常套句があります。

古くは金貸し、近代資本主義社会になってからは投資ということでしょうか。製造業や商業においても、工場やショップなどを建設したり借りたり、支出が先行します。

標記の諺は、お金を持っていない人は、自分の労働を切り売りするしかありませんが、金のある人は、融資や出資により、リターンが得られるということです。

296

Nothing venture, nothing gain.

日本語訳

冒険なくして得るものなし。

日本の常套句としては、「一か八か」があり、これに通じるものでしょうか。何かを成し遂げようとしたら、どうしてもリスクを取らなければなりません。

「No pain, no gain.」（苦痛なくして得るものなし。）に加えて、ある種の賭けが必要ということです。

バリエーションとして「Nothing ventured, nothing gained.」や

「Nothing venture, nothing have.」があります。

297

The exception proves the rule.

日本語訳

例外が法則を証明する。

日本の諺として、「例外のない法則はない。」があり、標記は、これを逆説的に表現したものと思われれます。

私たちは、多くの事象の中から、その領域の因果関係や相関関係を説明できる理論や法則を求めがちです。

しかし、法則とは特定の前提条件に限定されるものです。要するに、前提条件から外れる場合は例外となるわけです。

298

Red sky at night, shepherd's
delight; red sky in the morning,
shepherd's warning.

日本語訳

夜の赤い空は、羊飼いの喜び、朝の赤
い空は、羊飼いの警鐘。

日本でも「夕焼けは晴れ」という諺が
あります。

難しく言えば、地球の自転方向により、
天気は西から東に移ろうものです。

イギリスにおいても、日没時の夕焼け
は、西に雲がないことを意味し、
日の出前後の朝焼けはその後の雨天を

意味したわけです。

標記の定訳は「夕焼けは羊飼いの喜び、朝やけは羊飼いの用心。」というものです。

299

it takes three generations to make a gentleman.

日本語訳

紳士になるには三世代かかる。

日本においても、庶民が事業に成功して資産家になったり、官僚として成功して高い地位を獲得したとしても、上流階級からその一員と認められません。上流階級出身の妻を娶り、その子が同

じく上流階級の配偶者を得て生まれた三代目が、ようやく上流階級の一員として認められると言われていました。イギリスでも、やはり教育や社交界での評価を得て、三世代目が紳士と認められるようです。

300

Shrouds have no pockets.

日本語訳

死に装束にはポケットがない。

お金や物は、あの世まで持っていくわけにはいきません。だから、生きているうちに有効に使え、あまりけちなことをするなということ。

「shroud」は死者に着せる白い装束で、日本では経帷子（きょうかたびら）と呼ばれています。

説明するまでもなく、標記の諺は、「shroud」にはお金や宝物を入れるポケットがないとブラックジョークになっています。